

# 文章力を付けるための新聞の活用はどうあればいいか

## —新聞に親しみ、書く力を身に付けるには—

宮崎市立赤江東中学校  
教諭 崎山悦子

### 1 はじめに

本校は、大淀川の南部、空の玄関口宮崎空港を間近に控えた創立25年の中学校である。東には日向灘、遠く西に、わにか山を仰ぐ平野部に位置している。近くには、田畑が広がり、大淀川、八重川と穏やかな土地柄である。しかし、最近土地開発により、新しい家が続々と建てられ、また、道路も貫通するなど、賑やかな様相も見られる。本校には第1学年3学級、第2学年3学級、第3学年3学級、特別支援学級2学級、生徒総数約350名が在籍しており、転出入はそれほど多くはない。1、2年生の生徒達は、月曜から金曜まで、8:10から10分間朝読書を行っている。学校図書館や自宅から持ってきた本のほか、学級文庫も設けられ、毎日本に親んでいる。同じ読み物としての新聞について、「毎朝新聞を読んできるか」と、生徒に質問すると、「朝は忙しいので読んでいない。」という答えが大半であった。しかし、少数ではあるが、「読んできるか」との答えもあり、そのような生徒は社会に関する知識が、読んでいない生徒に比べて豊富であるように見受けられる。本校の生徒に尋ねたところ、多くの家庭では新聞を定期購読しているようであるが、新聞を読むことが習慣付けられている生徒は予想以上に少ないようである。社会の定期テストでは、『時事問題』を取り上げた問題が設けられ、担当教師の手によって記事の切り抜きが、掲示板に掲げられている。そのため、テスト前には、掲示板に群がるようにして読む生徒の姿が見受けられる。新聞を読むに当たって、何らかの動機付けがあれば、生徒は新聞を読むということであろう。

「文章に親しむ生活」が、心を豊かにさせ

るとは、多くの人が言うことである。好きなジャンルの本は読むが、そうでないものにはなかなか関心を示そうとしない生徒たちに、見識を深めものごとの判断能力を培う上で、新聞は適切な教材であると考えている。

そこで、昨年度より、国語の授業を通して、多岐にわたる情報やさまざまな文章に触れさせ興味を喚起してきた。また、社会の動きを知りそれについての意見を持つことの必要性など、意図的に物事をつかむ姿勢を話してきた。3年生では、公民の授業があるため、そうした内容に特化して読む生徒の姿が見られるようになった。その他、国語の教材でも、いくつか新聞記事が取り上げられている。1年生では、同じ題材でも、新聞社によって記事の内容が異なることを、記事を比較しながら読み取る教材もあり、生徒達は興味深く授業に取り組んでいた。

### 2 研究・実践の概要

前述したことから、昨年に引き続き、「新聞に親しみ、読み取る力を付ける」ことを実践してきた。指定校2年目とはいえ、今までの蓄積がない中での実践であるが、できるところから無理のない実践を作っていこうと考えた。

- 学級での新聞の活用
- 集団宿泊研修新聞づくり
- 文化発表会での国語弁論
- 作文指導
- 授業に生かす

読解力を伸ばし、自分の言葉で表現する力を身に付けさせるための取組をしてきた。

### 3 研究・実践の実際

(1) 帰りの会での新聞記事と感想発表

昨年に引き続き、新聞を教室に置いてみた。

身近に新聞を置くと、わずか10分間の休憩時間であるにもかかわらず、手に取る生徒は多い。休憩時間の10分では、読む量は決して多くはないが、第一面が、自分たちの生活に一番関わりのあるニュースだと知ると、毎日書かさず読もうとする生徒も出てきた。授業の中で、関連する記事に触れると、反応も随分活発になったと感じることもよくあった。

## (2) 学級での新聞の活用

そこで、その日の新聞記事から心引かれた記事の一つを選び、帰りの会で、感想を交えて発表することを項目の中に入れてみた。一日に一人、順番に発表するようにしたところ、当初は発表の声も小さく自信なさげではあったが、次第に時事問題に敏感になり、また自信を持って話す態度に変わっていった。新聞記事には、習っていない漢字や意味のとれない言葉も含まれ、辞書等を使って調べる姿も見られた。下記は、発表記録である。

( ) 月 ( ) 日 ( ) 曜日
発表者 ( )
記事内容 ( )
(記事を添付)
感想

## (3) 宿泊研修新聞作り

入学して早々、1年生は「集団宿泊研修」を青島青少年自然の家で行った。赤江東中学校の生徒の多くは、隣接する赤江小学校の出身である。幼いころからの付き合いが継続し仲が良い反面、自分の殻を破ることができないというジレンマもあるようだ。その人間関係を刷新する意味で、この体験学習に取り組んでみた。

青島青少年自然の家では、「絆を深め団結し、つくり上げよう 学年の宝物」をスローガンに室内追跡ハイキング・室内オリンピック・プラホビーなどに取り組んだ。当日は雨天のため、屋外での活動は制限され、屋内での活動となったが、生徒たちは、十分楽しく活動し友情を深めていったようである。その活動のまとめを「新聞」の形で表現することを試みた。実際に体験した活動を、自分で文章を起こし、記事にすることで、考える力や相手に伝える力を付けるねらいがあった。また、小学校時代から、行事を新聞の形でまとめる機会があった生徒たちに、新聞の仕組みについて学習することで、さらに要点をとらえる力や構成力が身に付くと考え、講師を招聘し「新聞作成講座」を持つことにした。

### ① 新聞作成講座

「宿泊体験学習を新聞で残そう！！」

講師：宮崎日日新聞社 読者室員

小川清一郎さん

### ② 内容

- ・新聞の紙面構成の特徴
- ・新聞作成の手順
- ・レイアウトのいろいろ
- ・題名や見出しの作り方

### ③ 新聞班・・・学級で3班から4班（一班7名～8名程度）

### ④ 計画作成

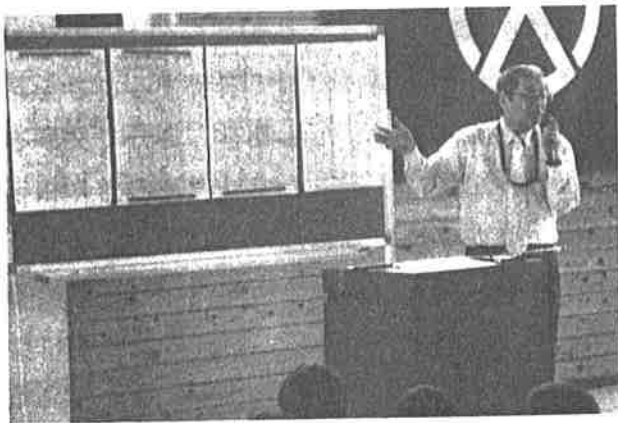
- ・流れ：記事の決定⇒記事の材料を収集する

⇒記事を書く（原稿用紙：見出しを入れて  
330文字） ⇒記事の校正（推敲）・レイア  
ウト確認⇒記事の清書⇒新聞用紙に張り合  
わせる

- ・記事の材料を収集する（活動の説明・食事・  
風呂・朝の会・楽しかった思い出）

【活動メモ】

活動名		
何について記事にす るのか（アイデア を出す）		○
		○
		○
決 定	内 容	
	見出し	



宮崎日日新聞社 読者相談室員  
小川清一郎さん

・【班の進捗状況報告書】7月6日（水）  
（ ）組（ ）班 班長（ ）

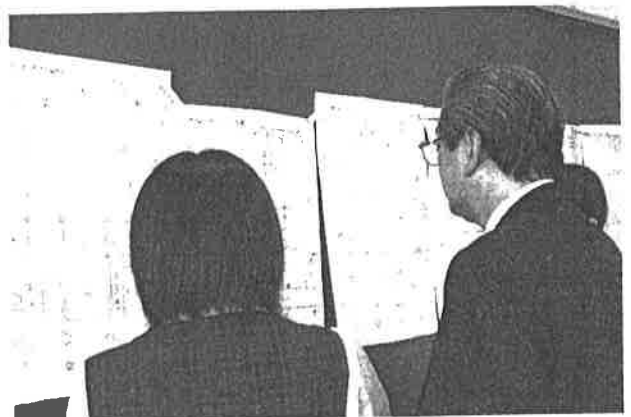
班員名	記 事 内 容	見 出 し
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

・【班の進捗状況報告書】7月13日（水）  
（ ）組（ ）班 班長（ ）

班員名	見出し 完成	下書き 完成	推敲 完成	清書 完成
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

☆ 新聞完成・・・ 月 日（ ）

- ④ 新聞の完成
- ⑤ 文化発表会で掲示
- ⑥ 新聞作成のまとめと反省



#### (4) 文化発表会での国語弁論

国語科では「書く」という領域があるが、普通の授業では、本文の読解に重きを置き、まとまった論文を書いたり、話すことに時間が割けないでいる。であるから、文化発表会での「国語弁論」は、生徒にとってなかなかハードルの高い活動である。そんな彼らが、頼りにするのが「新聞記事」である。2年生の作品は「松田選手のメダル」という題名である。宮崎県出身のメダリスト松田選手のオリンピックでの活躍と、期待されつつも思うような活躍ができない選手を励まし支える姿に感動しての作品だった。夏休みの作品に手を入れて、全校生徒の前で披露したが、書くことに加えて、話すことの難しさに苦しんだ発表だった。しかし、その甲斐あって、多くの生徒たちに共感を持って迎えられ、発表生徒の自信につながる良い機会になったと感じている。

#### (5) 作文指導

「新聞を読むことはいいことだ。」と、なんとなく思っている、なかなか機会がないと読まない生徒に、授業で「コラム記事」に見出しを付けるという試みを行った。おりしも、東京スカイツリーが大きな話題になっている時期で生徒たちも興味を持って取り組んでいた。

以下は生徒たちの作品である。

・震災に負けないスカイツリー スカイツリーは日本の芯柱
・心魂を傾けた塔
・スカイツリーから日本の明日を思う
・受け継がれる、五重塔の知恵を生かして・
・雨のち晴れのスカイツリー
・東日本大震災に耐えた東京スカイツリー
・下町に合う雅と粋で新たな日本を創りだす
・大暴風雨に耐えたスカイツリー

#### (6) 四コマ漫画を使っでの指導

普通の作文指導は、教材が終わって、筆者の考えや要旨や作者の思いなどをまとめる形で書かせていたが、すでに学習したことを改めて書くことは、生徒の興味をなかなか喚起させられないことから、四コマ漫画を文章化するという試みをしてみた。四コマ漫画は、起承転結がはっきりしている、文の構成を学ぶことができ、また、説明することで、文を簡潔にまとめる力が育つと考えたのである。この実践は「長期休みの課題」として、2年生に与えた。授業の流れを説明し、その後書かせてみたところ、漫画の内容（おち）がつかめない生徒が何人かいたものの、説明を付け加えながら指導した結果、200字でまとめることができるようになった。

#### 4 実践前後の変化・実践の感想・今度の課題

本校の生徒は、朝読書の習慣があるせいか、新聞が身近にあると、手に取るようである。もともと、自分の興味があるものを真っ先に読むようではある。3年生になると入試を意識し、新聞を意欲的に読むようになる傾向も見受けられる。しかし、1、2年生でも、社会への関心が高い生徒もわずかながら見られ、新聞は彼らの重要な情報源となっている。また、新聞を丹念に読む時間はないが、授業で取り扱うことで関心を持つ生徒も出てきた。「わかると嬉しい」という素朴な感想ではあるが、社会に向ける芽が少しずつ育っていると感じることもある。新聞の紙面も多様化しており、掲載されているクイズを使って、論理的な考え方を学ぶことさえできるようになった。指定校2年を終え、多くの新聞記事に触れ、生徒と楽しく語り合う時間が持てたことは、とても幸せだった。これからも、新聞の活用を試みていきたいと思う。